

雑感

自分というフィルター

菅原裕子さんが「子どもの心のコーチング」という本の中で、「人はみんな、それぞれ固有の価値観という「色眼鏡」をかけ、耳には「翻訳機」をつけています。そのフィルターを通して子どもを見ているので、それが実は事実とは違っているのに、そのことに気がつかないで、自分が聞きたいと思うことしか聞こえないのです」と書いています。般若心経の「色即是空」とは、この世のできごととは自分というフィルターを通して写る幻想のようなもの、という意味だと聞いたことがあります。私たちは、見たり聞いたりしたことを、即事実だと思って生きていますが、実はそうではないようです。

たとえば、「ピアノやめたい」と言ってきた子どもに対して、「この子は何をしても長続きしない」とか「あんなにピアノを習いたいとせがんでいたのに」というふう

自分のフィルターを通して子どものことを見てしまいます。そして、「なんとかピアノを続けさせたい」と無意識にその方向へ話を向けてしまい、もう子どもの話なんて聴けなくなっています。これでは親子のコミュニケーションもうまくいきません。

まずは、自分はフィルターを通して見聞きしていると自覚すること。そして、子どもの言ったことに対して「ピアノやめたいんだね」と共感的に聴いていくと、実は子どもはピアノをやめたいのではなく、友だち関係がしんどくなっていた、など本当のことが分かってくるかもしれません。

子どもを理解しようと思ったら、そのことを意識して、できるだけ色眼鏡や翻訳機を通さないように努力していきたいものです。子どもが「自分が主人公」の人生を歩んでいけるように。(守安あゆみ)

各種イベントのお知らせ (1月~3月)

第4回 教育カフェ・マラソン

昨年10月から始めた教育カフェ・マラソンも、はや4回目。今回は参加するみんなが話題提供者です。食卓を囲みながら、今後の企画についてわいわい話し合しましょう。

【日時】1月18日(金) 18:30 ~ 21:30頃  
 【場所】京の恩返し 梅田店  
 大阪市北区堂山町15-4 梅田シティビル ACT3-205  
 【参加費】3500円(飲み放題付き)  
 【定員】20名

【申込方法】インターネットによる申込み  
<http://kokucheese.com/event/index/66821/>  
 電話による申込み TEL 072-735-7676

《今後の予定》

- 第5回 2013年2月8日(金)  
吉田敦彦さん / 大阪府立大教授
- 第6回 2013年3月15日(金)  
寺脇研さん / 京都造形芸術大学教授

教育支援サイト「いきはぐ」にこどもの森学園が紹介されました

子どもたちの生きる力を育むプロジェクト(略称いきはぐ)という教育支援サイトの「学校・園を探す」というページに、12月から箕面こどもの森学園の記事が掲載されています。詳しくは、[http://ikihug.com/en\\_school/10\\_minou/area\\_a01\\_01.html](http://ikihug.com/en_school/10_minou/area_a01_01.html) をご覧ください。

こんな学校に出会いたかった！！

♪ 箕面こどもの森学園生徒募集 ♪

子どもたちの主体的な学びを支援するオルタナティブ・スクールです。子どもの興味関心を学習の中心にすえ、子ども自身の生活から学習を組み立てるフレネ教育の考えと方法を取り入れています。

募集人数：10名程度(新1年生は5名程度)  
 対象年齢：6~11歳(小学5年生まで)  
 場所：箕面市小野原西6丁目15-31  
 見学：随時(ご相談の上で日程を決めます)  
 体験入学：見学の後、学校の平常の授業を5日間体験していただきます。  
 入学面接：ご相談の上で日程を決めます。  
 問合せ先：箕面こどもの森学園 (072-735-7676)  
 ※ 見学・入学希望の方はお電話ください。



アクセス：阪急北千里駅から北へ徒歩15分  
 \*\*\*\*\*  
 《編集後記》

明けましておめでとうございます。みなさんには、元気にお正月を迎えられましたか。この通信が届く頃には、子どもたちの元気な声が学園に響きわたっていることでしょう。今号は、9月から12月までのこどもの森の活動をお伝えする内容です。2学期の間、学園で子どもたちが日々取り組んで来た活動は、この通信だけでは到底お伝えできないくらいとても豊かな内容です。個別の活動は1月にリニューアルされた学園ホームページからご覧ください。1学期に16人で出発した生徒の数は、2学期には20人に増え、3学期はさらに増える見込みです。(松崎)



秋のキャンプ

恒例の秋のキャンプ、今回は西宮の甲山キャンプ場。今まではロッジでの宿泊でしたが、今回はテント泊まり。バス停から歩いて、お弁当を食べるピオトープに。森の中を抜け、キャンプ場に到着。早速、男の子たちは、映画インディジョーンズ&スタンドパイミーの冒険組とテントの周りに石を並べ素敵な小径を作る職人組に分かれました。女の子たちは、テントの中でほっこり女子会を。日も傾いてきて、「ごはんの用意しよう。」薪で御飯を炊くのは、煙たかったりするけれど、上々の炊き上がり！パーベキューの野菜もお肉も美味しそうに焼けて、飯ごうのごはんも空っぽ。

食後は、待ちに待った肝だめし。ゴールは素敵なビューポイント、みんなで見とれました。その後、パーベキューコンロを囲んでのおしゃべり。夜も更けてきてテントに入ってから楽しそうな声が聞こえてきます。風の音を聴き、夜の暗さを感じたキャンプでした。(北出)



オープンスクール

11月10日(日)にオープンスクールを行いました。7人の子どもたちが手芸、木工、クッキングに分かれ授業の体験をしました。手芸ではクロスステッチ、木工ではくぎ絵、クッキングでは米粉のクッキーを作りました。各グループに学園の子どもたちがサポートに入り、体験の子たちの作業をうまく手助けしていました。

保護者の方たちは、学園の子どもたちから説明を受けながら、授業を参観しました。参観後、子どもたちが制作したパワーポイントによる学校紹介。「ことば・かず」の学習の説明、テーマ学習「障害ってなに？」の取り組み、音楽や英語など選択プログラム、プロジェクト、研究発表会の様子など、落ち着いて大勢の前で堂々と話していました。受付から学校説明まで子どもたちが主体となり行ったオープンスクール。参加された方々には、この学園で学ぶ意味を感じていただけたのではないのでしょうか。(芳仲ま)

12月のお楽しみ会

たくさんのお客さんを迎えてお楽しみ会が開かれました。低学年、高学年のそれぞれの音楽演奏があり、女子のダンスグループ・ロングIDは、長いダンスをがんばって踊ってくれました。休憩タイムでは、ケーキ作り担当が作った手作りケーキが並べられ、お皿を持って並んだ人たちが「わお〜！」と驚きの声が上がっていました。後半は、劇団「アニマルズ」の「4ひきのねこ ふくろのなか」の公演。役者さんと裏方さんの協力で、かわいい劇が演じられました。最後に、景品を並べて参加者全員でビンゴを楽しみました。

今回は、どうなることかと心配もしましたが、誰かが不調の時には他の人ががんばってくれていたり、こっそり努力してくれていたりと、もう一度がんばろうと動き出す



発行日：2013年1月10日  
 発行所：NPO法人箕面こどもの森学園  
 562-0032 大阪府箕面市小野原西6-15-31  
 tel&fax 072-735-7676  
 e-mail kodomomori@nifty.com  
 URL <http://kodomonomori.com>

人がいたり、それぞれのドラマがあったこの日を迎えることができました。学校行事は、無理してがんばらないといけなかったり、苦労があったりするけれど、子どもたちにとって何かを吸収し成長していく大切な活動だと思いました。(平嶋)

エスミさんの科学実験

4月から子どもたちは月に一回、科学実験を楽しんでいます。実験をガイドしてくださるのは、高校で長年理科を教えてこられたエスミさん。「北摂からガリレオを！」を合言葉に、実験を通して科学の原理と楽しさを子どもたちに伝えることをライフワークとして活動されています。

これまでに子どもたちは、虹色万華鏡やストロー笛を実際につくって、光や音の性質を楽しみながら調べました。さらに、ドライアイスの実験、水の電気分解の実験、燃えた後の空気の成分を調べる実験、ろうそくの科学の実験など、本格的な高水準の実験にも取り組んできました。

単に「不思議な現象」に接して驚くだけでなく、「なぜ？」に始まって「現象の背後の原理」を探っていく実験は大好評。みんなが毎月の実験を心待ちしています。副産物として、実験を通して、今では全員が苦手だったマッチによる点火ができるようになりました。実験の詳細は、ホームページの「学園でのデキゴト」をクリックし、「カテゴリ」欄から「科学と社会」を選べば、すべてご覧になれます。(松崎)





## 自由作文・テーマ作文紹介

## お母さんのたんじょうびケーキ

こころ（2年）

9月9日にお母さんのたんじょうびパーティーをしました。おとうさんといっしょに、ショートケーキを作りました。おかあさんとおとうさんと前の日にざいりょうをかいにきました。ケーキ作りで、スポンジを作るのがたいへんでした。そのあとにクリームをぬりました。うまくできました。スポンジの上にクリームみかん、クリームみかんのじゅん番でのせました。まんやかにみかんを二つのせました。そのまんやかにクリームをしばりました。つよくにぎりすぎて、クリームが出すぎました。スポンジのよこにみかんをすきまがないぐらいつめてつけました。

切ってたべるとき、3時30分ぐらいでした。おいしかったし、タッパーひとつ分ぐらいの大きさで小さかったから、すぐにたべおわりました。はじめてつくったけど、じょうずにできてよかったと思いました。

## ひーこの家のやどかり

ひびき（4年）

ひーこはやどかりを買っていて、名前は「マサオ」です。今は砂の中でだっぴしているのを見えませんが、「マサオ」は緑色の貝によく入っています。前はいっぱいいたけど今は1ぴきです。ひーこたちが新しい家にひっこすときにいっぱいなくなりました。でも「しらいし」と「マサオ」とだれかは生きてました。

前ヤドカリが入ってる水槽のすきまが空いていて、それから「しらいし」さんがいなくなりました。どこをさがしても死体とか見つからないので、隙間から逃げたのかなーと思いました。水槽を登るのがうまいのは「しらいし」と「こゆき」さんだけです。「マサオ」は登り降りが一番下手です。

## 生きるって何、死ぬって何？

のぶき（6年）

生きるのは、感じることだと思う。たとえば、「死ぬ〜」って思って生きてたとき「生きてるんだな〜」と思う。

おらは、沖縄のダイビングで酸素をくわえる所が海面まで4.3mの所ではずれてめっちゃこわかった。死ぬって何は、終わるってことだと思う。

## プロジェクト紹介

## ふでばこ

ちうね（1年）

つくったりゆうは、ちーちゃんがつくってたからつくりました。

つくりかたをせつめいします。まず、さいしょにぬのをえらんで、つぎに本のえのとおりぬのをきって、つぎにぬのをおってアイロンをしました。そして、ファスナーをミシンでつけました。それでかんせいです。かかったじかんは、3じかんです。

むずかしかったところは、ファスナーをつけるところです。つぎ、もしやるとしたら、もっとぬのを大きくきるようにします。



## ティッシュカバー

わかば（2年）

家にあまりティッシュカバーがなかったから作りしました。スナップボタンをうまくつけることができました。布を切りすぎてあまったから、タックをつけました。

車のティッシュカバーに使ってくれているので、うれしいです。



## お弁当セット

かりん（3年）

どうして作ったかという、お弁当入れがあればべんりだなと思ったからです。ランチョンマットは、お母さんが「あったらすてきだな」と言っていたからです。おはし入れは、お弁当入れをつかうときべんりだなと思ったからです。くふうしたところは、使う人に合わせて、大きさを小さくしてみたり、大きくしてみたりしたことです。

むずかしかったところは、まるひもを通すばしょをぬうとき、うらもぬいあわせそうになったところでした。



## 卒業生からのメッセージ

## 中学校での生活

北出 麦人（2010年度卒）

ぼくは、きのくに子どもの村中学校という学校の動植物研究所というクラスに入って学んでいます。今年はカワネズミという名前がつきながらモグラの仲間という小型哺乳類と、ヤマネという小型哺乳類を中心に、ピオトープと裏山で勉強しています。

ミーティングで11月中にヤマネの巣箱を100個作るという計画をたてました。11月初めにはまだ65個ぐらしか出来てなかったので「絶対無理だ」と思ったのですが、プロジェクトの時間を全部巣箱作りに当てたこととみんなが頑張ったので、ギリギリ間に合わせることができました。そして、お祝いに乾杯をしました。

箕面こどもの森学園ときのくに子どもの村の決定的な違いは、ものごとを決める時です。箕面子どもの森学園は、ミーティングをしたとき、みんなが納得するまで何時間でも話し合いをしますが、きのくに子どもの村では（人が多いので仕方がないのですが）たいいていの場合多数決で決めます。

## 哲学する子どもたち

ことば共同の哲学の時間、2学期のテーマは子どもたちが決めました。低学年は「人間ってなに？」。高学年は「世界からなぜ戦争はなくなるのか？」、そして「生きるって何？死ぬって何？」でした。

輪になって、ろうそくに灯がともると、言いたくてもうずうずしていた男の子が口火を切りました。

「なあなあ、生きるって、感じるってことちゃう？」、「死ぬって存在がなくなることやる。でも気持ちはなくなるらない」、「残ってる人が覚えてるから、人の心の中で生き続けるんちゃう？」、「生きてるって感じるの、楽しい時！」、「危機が迫って来て、助かった時！」、「そうそう！プールで息ができなくて、息が吸えた時に生きてるって思った」、「生きるって選択やなあ」、「生きるって楽しいけど、たまに辛かったり苦しいよなあ」

子どもたちの哲学には、ハッとさせられることばかりです。この話し合いの後に、作文を書きました。自分に問うということが、彼らの中に少しずつ積み上がっています。（中尾）

## NPO 法人箕面こどもの森学園の事業活動 9月～12月

## エコスクール報告（9月～12月）

今年度のエコスクールの後半は、“農”と“にじみ絵”がテーマになりました。9月と11月は、能勢町倉垣の畑へ出かけ、さつま芋掘りや大根抜きに奮闘。吹田市・能勢町交流センターで、芋きんとんや大根葉の味噌汁を作ったり、流行の”Kitchen garden”を楽しみました。10月は、幼稚園などの運動会と重なり、残念ながら中止となりましたが、12月は学園で、久しぶりのにじみ絵を行いました。濡らした画用紙の上に、赤・青・黄の好きな色をたっぷりつけた筆を置くと、じわ～、じわじわ～と色がにじんでいきます。にじみの過程には、色が混ざり合って新たな色が生まれたり、植物の根っこのように色がひろがっていったり…自分の意思が届かない”自然”がそこにあり、大人も子どもも気持ちにニュートラルになります。エゴが優勢になってしまう日常から少し離れて、自然に触れてゆったりする時空間をエコスクールで提供できればと思っています。1月は、”たき火”を予定しています。（西川）



## こどもの森講座第3回

## ～全校集会をやってみよう！～

9月16日に開かれた第3回目のこどもの森講座には、公立学校の先生やオルタナティブスクールのスタッフ、学生、議員、主婦など様々な立場の方たちが参加されました。こどもの森学園で実際に起こった状況設定で、みなさんにスタッフと子どもたちの役になってもらい、多数決でない話し合いによる解決方法を体験していただきました。後日、公立学校の先生が早速ご自分のクラスで実践されたそうです。（守安）

## 韓国からの見学者

韓国の学校の先生たち約20名が、スタディツアーの一環で、箕面こどもの森学園に見学に来られました。グループで学校見学をした後、質疑応答の時間をとりました。学歴社会、社会性のことなど、いろんな意見や質問がでました。見学した感想として、団長さんから、「アインシュタインやエジソンを育てた家庭教育のような、子どもの興味・関心を尊重する教育がここで行われているのだと思う」と言っていました。（藤田）



## 教育カフェマラソン

10月から毎月1回のペースで、「教育カフェマラソン」を開催しています。教育関係者だけでなく、ごくごくふつうの市民も一緒になって教育について考えていこうという企画。毎回「話題提供者」が問題提起し、小グループになって語り合う形式で進めています。

第1回・湯浅誠さん「教育と民主主義」、第2回・宋悟さん「越境人」、第3回・武田緑さん「社会の「渦」、自分がつくる「渦」」毎回、興味深いテーマで盛り上がっています！今後100回まで継続していく予定です。最終回はなんと8年後！？まさに「マラソン」です。

1月以降も豪華な話題提供者がラインナップされています。ぜひどうぞ！（西江）



第1回話題提供者の湯浅誠さんを囲んで

## 『多様な学び』の2つのイベント

10月下旬と12月初めに、「多様な学び」に関する2つのイベントが開催されました。

10月27日、ドーンセンターで開かれた「オルタナティブ教育フォーラム2012」では、文部科学省で教育行政を担っておられた寺脇研さんの基調講演の後、おるたネット代表の古山明男さんとの対談。オルタナティブ教育者のシンポジウムと、中身の濃いイベントでした。

12月2日、中之島で開催された「子どもの多様な学びの機会保障法学習会」では、教育や子どもの居場所に関わる方々が全国から集い、様々な立場からの真剣な議論がなされました。両方とも70名近くの参加者があり、子どもの多様な学びについて熱心に考える方々が、こんなにもたくさんいるのだということに胸が熱くなり、励みになりました。（中嶋）

## ファンドレイジング・マラソン

ファンドレイジングとは、NPO団体等の資金集めのことです。今回「フォーラムみのお（箕面市民活動センター内）」が「北摂NPO寄付啓発プロジェクト」として7月1日～10月31日に実施、計7団体がエントリー、こどもの森学園は寄付集めの目標を8万円と定めて参加し無事クリアしました。期間中、チャリティータウン・プロジェクト等様々なイベントや学習会が行われました。（芳仲た）

## イエローレシート・キャンペーン

毎月11日、標題のキャンペーンに運営委員の有志が出かけています。この日にお客さんからレシートを集めると、領収書に記された金額の1%がイオンからNPO法人に寄付されます。こどもの森にとって、学園の教材費購入の貴重な財源の一部となっています。

毎月11日のお買いもの際には、ご協力を！

## NPO 法人箕面こどもの森学園の活動にご支援を！

箕面こどもの森学園のさらなる発展のために、ご支援いただける方は、次のいずれかの方法でご協力願います。

- ◆正会員になる（年会費6,000円）
- ◆賛助会員になる（年会費3,000円）
- ◆資金・資材を寄付する
- ◆情報・労力を提供する

振込先：加入者 NPO 法人箕面こどもの森学園  
 <郵便払込> 00980-7-232403  
 <郵便口座振込> 14020-68190721  
 <銀行振込>

ゆうちょ銀行四〇八支店（普）6819072  
 池田泉州銀行小野原支店（普）72258

※会員になられる方には入会申込書と払込用紙をお送りしますので、下記にご連絡ください。

TEL&FAX 072-735-7676

e-mail kodomomori@nifty.com